令和８年９月８日

報告「こうべ手話フェスティバル」

公益財団法人神戸新聞厚生事業団

第６回を迎えた「こうべ手話フェスティバル」

令和の時代に入り、きこえる人、きこえない人、きこえにくい人が平等に生活し、社会参加できる世の中を目指す取り組みの一環として、手話言語の理解と普及を目的に、公益財団法人神戸新聞厚生事業団、特定非営利活動法人神戸ろうあ協会、神戸市手話サークル連絡会で構成する実行委員会と、株式会社神戸新聞社との共催で実施。令和元（2019）年８月１０日（日曜）に第１回を開催した。

神戸をはじめ、兵庫県内５市が手話言語条例を施行して１１年となった令和８（2026）年度の「第６回こうべ手話フェスティバル」は、８ 月２日（日）、神戸ハーバーランドの神戸新聞松方ホールで開催した。

メインイベントの手話スピーチ大会では、「高校生・18 歳以下」「一般初心者（手話歴３年未満）」「一般中級・上級者（手話歴３年以上）」の３部門で行われ、７月 12 日の事前審査（神戸新聞社）に神戸市内の 12 組 14 人が応募。事前審査を通過した 11 組 13 名（７歳～78 歳）がフェスティバルの本選に出場しました。

開催当初より、司会者は、高校生・１８歳以下の部の前回１位の方が務める。また、手話スピーチ大会の出場者を代表して宣誓するのは、高校生・１８歳以下の部の最年少者が務め、今回は小学校２年生と３年生の１組が大役を務めた。

その道のプロである審査委員長の庄﨑隆志さんは「全国に手話スピーチ大会は７～８大会ある。神戸は参加世代が幅広いのが特長で、観客も楽しめる内容になっていて、ユニークな存在」などと述べている。さらに、神戸の特長として、事前審査の参加者に手話スピーチの上達へ向けた丁寧な助言や指導が丁寧なこと。本選の舞台で成長してもらいたいという審査委員の思いがある。

令和８年３月に「第２１回京都手話フェスティバル」を主催した京都府聴覚障害者協会と京都新聞社会福祉事業団の関係者が、２年連続で「こうべ手話フェスティバル」の視察に訪れ、京都新聞社会福祉事業団の一行は今回、開会式など舞台裏の様子も見学していた。８年前に神戸開催の参考にさせてもらった「先輩」の京都の関係者が、神戸の開催内容に注目しているようです。

昨年６月に「手話施策推進法」が施行され、手話フェスティバルについての事業報告を読んだ内閣府担当者からも励ましの言葉があった。

少しでもよくなろう、みんなでワクワクしたい…。実行委員会でコミュニケーションを図り、理想を追い求めて毎回、創意工夫をしているつもりだが、何とか継続することに精いっぱいの状況。ただ、ろう者ときこえる人の協業で開催を継続していること自体が、実は素晴らしい財産であること、それが運営の原動力ともいえます。

（公益財団法人 神戸新聞厚生事業団 専務理事 山中 英夫）

令和８年９月８日

報告「こうべ手話フェスティバル」

公益財団法人神戸新聞厚生事業団

開催トピック

【第６回】令和８（2026）年８月２日　神戸新聞松方ホール（500 人）

☆…発表内容（原稿）をスマホで見ることができるようにした。神戸新聞厚生事業団のホームページの「最新のお知らせ」に当日４時間ほどアップ。当日配布したプログラムの出場者の紹介のページの最下段にも URL を掲載。

☆…手話スピーチ大会の本選出場者に発表形式について再アンケート。その結果、「読み上げ者同伴」３組、「手話と発声」１組、「手話のみ」７組となった。

また、78 歳のろう者の手話ポエム「故郷（ふるさと）」は新たな試みで、審査委員会の審査は苦労した。

☆…審査委員会５名の構成変更（ろう者２人→３人、きこえる人３人→２人）

☆…手話スピーチ大会の発表内容の原稿の中に「手話施策推進法」の文字を見て、審査委員は感じ入る。

☆…アトラクションは、神戸市垂水区在住のデフクラウン・カズさんによるパントマイム。２年連続のクンパダプンムル隊。「静」と「動」の舞台となった。いずれも神戸ろうあ協会からの推薦があった。

☆…会場外の広間、ホワイエでは福祉バザーの物販コーナーを２年連続で実施。福祉作業所など出店（４店）が出店した。

☆…入場整理券のない人の対応を実施。開場時間の正午に配布を開始。

☆…舞台の様子を舞台後方の壁面に投影するカメラワークの技術が向上した。

☆…「令和８年熊本地震」の直後だったため、被災者救援の義援金の募金箱２つを会場外のホワイエに設置した。神戸ろうあ協会の小川知子会長の呼びかけの甲斐あって、わずか３時間半で計５万 6315 円の浄財が寄せられた。

令和８年９月８日

報告「こうべ手話フェスティバル」

公益財団法人神戸新聞厚生事業団

【第５回】令和７（2025）年８月３日　神戸新聞松方ホール（600 人）

☆…手話スピーチ大会の活性化策「第２弾」。実行委員会、審査委員会にて、応募の敷居を低くすることを決定。手話スピーチの弁論形式にこだわらず、手話漫才、３名までの人数によるコント（寸劇）などの発表内容も可能とした。中には手話スピーチの原稿を書くことに負担を感じる方もいることを想定して、原稿は原稿用紙ではなく、簡潔なメモでも可能とした。
その方向性は、第１回の優勝者が「手話落語」を発表したことや、審査委員会のメンバーに俳優、舞台俳優が複数いることも関係している。

☆…フェスティバル色を強めるために、アトラクションを充実させた。
神戸野田高等学校ダンス部の「手話ダンス」に注目し、出演交渉して実現できた。開催の１か月後に高校日本一となった神戸野田高校ダンス部の「手話ダンス」に会場は魅了された。

☆…アトラクションではほかに、聴覚障害のある人たちの国際スポーツ大会「デフリンピック」の日本初開催を前に、兵庫県、神戸市在住の日本代表３選手がゲスト出演。手話をベースに考案された日本発祥の応援スタイル「サインエール」の実演講習が行われ、会場の観客約 600 人と一体になって盛り上がった。

☆…フェスティバル色を強めるために、会場外の広間、ホワイエでは福祉バザーの物販コーナーを復活させた。福祉作業所など出店（６店）が出店した。

【第４回】令和６（2024）年　８月１１日　神戸新聞松方ホール（450 人）

☆…手話スピーチ大会の活性化策「第１弾」。一般の部を「一般初心者（手話歴３年未満）」と「一般中級・上級（手話歴３年以上）」に分け、「高校生・18歳以下」とを合わせた計３部門制とした。本選出場の門戸を広げた。

☆…コロナ禍が終わり、人数制限のために導入していた「入場整理券（入場無料）」を廃止したところ、訴求力の低下を招き、観客が減少した。チケットには開催日時が印刷されていて PR になっていたことがその時わかった。また、開催日がお盆前になったことも影響した。会場（最大 700 人収容の松方ホールで初めて２階席を使うことなく、１階席も空きが見られた）

令和８年９月８日

報告「こうべ手話フェスティバル」

公益財団法人神戸新聞厚生事業団

【第３回】令和５（2023）年　８月　６日　神戸新聞松方ホール（550 人）

☆…神戸新聞松方ホールで再開することに注力した。
　１階席、２階席を開放した。

【第２回】令和３（2021）年１１月２７日　神戸市教育会館（無観客）

☆…コロナ禍で８月開催を延期、会場を変更して 11 月に無観客で実施した。
　前年の令和２（2020）年、そして、翌年の令和４（2022）年の開催は、いずれもコロナ禍で中止となった。

【第１回】令和元（2019）年　８月１０日　神戸新聞松方ホール（600 人）

☆…兵庫県内では初めての本格的な手話スピーチ大会（コンテスト）のある手話フェスティバルとして、開催。会場外のホワイエで福祉バザーの出店も。手話スピーチ大会では本選出場者が、プロのアーティストと同じ舞台に立つことができることがアピールポイントにもなっていいて、出場者の動機付けにもなっている。

付録（その他の添付資料）

・事前審査（７月 12 日）風景及びフェスティバル当日（８月２日）の様子を撮影した写真のイメージ

・当日会場で配布した第６回プログラム、入場整理券

・募金箱の義援金 56,315 円の領収証

・開催の新聞報道。令和８（2026）年８月６日付神戸新聞朝刊の記事など